



平成30年12月15日 第816号

一般財団法人日本遺族会
〒100-0001 東京都千代田区千代田一丁目六番三
〒100-0001 東京都千代田区千代田一丁目六番三
電話 03-3261-5521
03-3261-2389
03-3261-0010
FAX 03-3261-0011
定価 毎月150円(税込)
1年1,500円(税込)

日本遺族会は国の礎となられた英霊顕彰をはじめ、戦没者の遺族の福祉の増進、慰藉救済の道を開くと共に、道義の昂揚、品性の涵養に努め、世界の恒久平和の確立に寄与することを目的とする。

31年度 本会の要望実現に向けて 今後の運動方針を決定

平成三十一年度政府予算の編成時期を迎え本会では、今後の運動方針等を決定し、山積する諸問題解決のため、十二月十三日に遺族議員協議会総会を経て同月十四日、全国戦没者遺族大会を開催し、財務大臣、経務大臣、厚生労働大臣をはじめ関係省庁、自民党所属国会議員への陳情運動を行う。



常務理事会で本会の要望事項実現に向けて挨拶する水落敏栄会長=11月12日、千代田会館で

十一月を迎え、安倍晋三首相、第七十四回全国戦没三内閣は平成三十一年度遺族大会を開催することを決定している。また、大会前日の十三日には、遺族議員協議会(会長・尾正秀久参議院議員)元本会会長の総会が参議院議員会館会議室で開催され、日本遺族会を代表して水落敏栄会長(参議院議員)が平

成三十一年度政府予算に對する戦没者遺族の要望改善等に関する本会の要望を表明し、出席した自民党所属国会議員、経務省、厚生労働省の関係省庁に要望事項の表現に向けて協力を要請した。この会議には水落会長をはじめ副会長、専務理事、常務理事らが出席し、自民党所属国会議員(氏名は新年、月号に掲載)に陳情した。本会の主要な要望事項は、公務扶助料、特別扶助料等の支給額格差の是正や特別用慰金の受給要件の緩和、また、戦没者遺児による慰霊友好親善事業の充実や、遺骨収集事業等の拡充強化、さらには、全国戦没者追悼式への固費参加者の増員並びに旅費算定の見直し等についてである。全国戦没者遺族大会終了後は各都道府県遺族代

表が議員会館、自民党本部に赴き、それぞれ地元選出の自民党所属国会議員に面会し、本会の要望事項の表現に向けて協力を要請した。この会議には水落会長をはじめ副会長、専務理事、常務理事らが出席し、自民党所属国会議員(氏名は新年、月号に掲載)に陳情した。本会の主要な要望事項は、公務扶助料、特別扶助料等の支給額格差の是正や特別用慰金の受給要件の緩和、また、戦没者遺児による慰霊友好親善事業の充実や、遺骨収集事業等の拡充強化、さらには、全国戦没者追悼式への固費参加者の増員並びに旅費算定の見直し等についてである。全国戦没者遺族大会終了後は各都道府県遺族代

表が議員会館、自民党本部に赴き、それぞれ地元選出の自民党所属国会議員に面会し、本会の要望事項の表現に向けて協力を要請した。この会議には水落会長をはじめ副会長、専務理事、常務理事らが出席し、自民党所属国会議員(氏名は新年、月号に掲載)に陳情した。本会の主要な要望事項は、公務扶助料、特別扶助料等の支給額格差の是正や特別用慰金の受給要件の緩和、また、戦没者遺児による慰霊友好親善事業の充実や、遺骨収集事業等の拡充強化、さらには、全国戦没者追悼式への固費参加者の増員並びに旅費算定の見直し等についてである。全国戦没者遺族大会終了後は各都道府県遺族代

表が議員会館、自民党本部に赴き、それぞれ地元選出の自民党所属国会議員に面会し、本会の要望事項の表現に向けて協力を要請した。この会議には水落会長をはじめ副会長、専務理事、常務理事らが出席し、自民党所属国会議員(氏名は新年、月号に掲載)に陳情した。本会の主要な要望事項は、公務扶助料、特別扶助料等の支給額格差の是正や特別用慰金の受給要件の緩和、また、戦没者遺児による慰霊友好親善事業の充実や、遺骨収集事業等の拡充強化、さらには、全国戦没者追悼式への固費参加者の増員並びに旅費算定の見直し等についてである。全国戦没者遺族大会終了後は各都道府県遺族代

奉納菊花展 靖国神社で開催
靖国神社において第六十三回奉納菊花展が十月十六日から十一月五日にかけて開催された。十一月十七日には、靖国神社において奉納菊花展の表彰式が行われ、次点の作品に日本遺族会

女性部 合同研修会を開催

真剣かつ真摯な討議を行う
十一月二十四日、東京文京区の東京ガーデンパレスにおいて女性部から六十三人、青年部からは戦没者の孫、ひ孫、甥、姪ら六十一人、オプザーバーなどを含め百三十四人が相集い、日本遺族会女性部・青年部合同研修会が開催された。研修会は午前十時、岩村誠青年部幹事が進行し、百田節子女性部副部長の開会の辞で始まった。最初に水落敏栄会長が「女子部」を題して討議され、また青年部は「青年部事業、七つの柱の行動計画について」と題し

午後三時からそれぞれ別の研修討議を受けての全体会議が開かれ、女性部は「青年部を育成し、女性部の将来を託せる土壌を作ること努める」とし、今後、行動していくことが報告された。青年部からは「遺骨収集、慰霊参拝への参加やフェリスブックのグループ結成等、出来ることから行動に移すことが大事だ」と確認した報告した。研修会は、それぞれ真剣かつ、真摯な討議が行

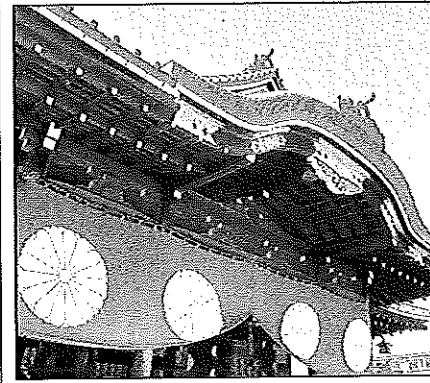
討議された。午後三時からそれぞれ別の研修討議を受けての全体会議が開かれ、女性部は「青年部を育成し、女性部の将来を託せる土壌を作ること努める」とし、今後、行動していくことが報告された。青年部からは「遺骨収集、慰霊参拝への参加やフェリスブックのグループ結成等、出来ることから行動に移すことが大事だ」と確認した報告した。研修会は、それぞれ真剣かつ、真摯な討議が行

討議された。午後三時からそれぞれ別の研修討議を受けての全体会議が開かれ、女性部は「青年部を育成し、女性部の将来を託せる土壌を作ること努める」とし、今後、行動していくことが報告された。青年部からは「遺骨収集、慰霊参拝への参加やフェリスブックのグループ結成等、出来ることから行動に移すことが大事だ」と確認した報告した。研修会は、それぞれ真剣かつ、真摯な討議が行

謹 哀悼

石井順一氏 日本遺族会常務理事、佐賀県遺族会会長。
十一月二十二日、逝去された。八十九歳。葬儀は東京・江戸川区の団社会で行われた。喪主は長男賢一氏。
板垣正氏は、昭和三十三年二月、日本遺族会に

奉職。要職を歴任した後、昭和四十七年より専務局長に就任された。昭和五十五年六月、第十回参議院選挙において全国区から出馬し、当選。以降平成十年まで三期十八年間参議院議員を務められた。戦没者遺族の処遇改善、福祉の向上等に尽力された。



本枯らしが吹かないまま12月に入り、初雪や初氷の知らせも遅く、暖かさも走らぬ。明治から150年、大正、昭和、平成となり、来年5月には新しい元号となる。ふと平成最後の年の瀬を前に思いを馳せ、遠い記憶を辿ったりしている。▼そんな中「平和維持する責任」という見出しが目に入った。「戦後中高生新聞」で平成の次の時代どんな価値観を大切にしようかという質問に「40の言葉」の中で圧倒的1位になったのが「平和」だとい

た。2万1千人中8623人が戦争経験者が少なくなる中、平和維持は簡単に伝えてきた努力が水の泡にならないように、この次世代に語りつぐ責任と決意の現れか。2位「安全」3位「安心」にも自然災害の恐ろしさや備えの大切さ、いじめや虐待をなくす事など人の命を守るうとする共通点が見てとれる。心細さは否めないが、10代のたくさんのやさしさに心が和んぶ所である▼経済人らで作る「天皇陛下即位30年奉祝委員会」が設立され、御結婚60年を迎える来年4月10日に超党派の国会議員連盟と共催で「感謝の集い」を。また秋には皇居前広場で新しい天皇の即位を祝う「国民祭典」を聞く事が決まった▼来年が国民がこぞつてこまごまぐ機嫌が高まるように、そしてあの10代の中高生のようにたくさんのやさしさに包まれる年でありませうようにと願う。(A)

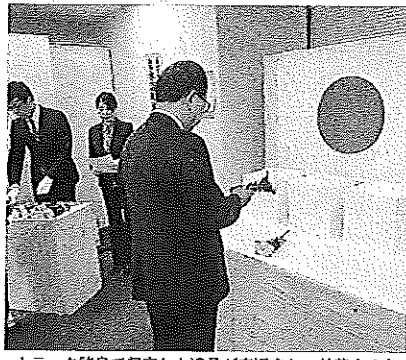
未来へつなぐ 靖國の心
—平成31年 靖國神社御創立150年—
初詣は靖國神社へ
御本殿にて参拝しましょう
◎主な催し 新春福引き・全国神社奉納絵馬展・振舞い酒・甘酒(無料)
靖國神社社務所 電話 03-3261-8326 詳しくは 靖國神社

トラック諸島で5柱を収容

厚生労働省で拜礼式挙行

JARRWC

日本戦没者遺骨収集推進協会(JARRWC)は、トラック諸島戦没者遺骨収集緊急派遣隊、樺太・占守島戦没者遺骨収集派遣隊を実施し、本会からはトラック諸島に一人、樺太・占守島には二人が派遣協力した。現地では収容した遺骨は日本へと奉還され、厚生労働省援護会議室でそれぞれ拜礼式が執り行われ、水落敏栄本会長が参列し祭壇に献花した。



トラック諸島で収容した遺骨が奉還され、献花する水落敏栄本会長=11月8日、厚生労働省で

トラック諸島

トラック諸島戦没者遺骨収集緊急派遣隊は、ミクロネシア諸島、ユーロク、モエン島、西沖で沈没した遺骨を収容することを目的とし、十月三十日から十一月八日の期間で任務にあたった。

派遣団は、在ミクロネシア日本大使館、ミクロネシア連邦外務省、チニク州政府等の関係

機関と協議し、事業への理解と協力を求めた。

十一月三日、神田丸沈没現場で遺骨の確認をするため、現地ダイバー二人が潜水し、船尾エンジンルームを中心に捜索して二箇所で遺骨を発見し、翌四日は、発見した遺骨を収容するために再度潜水し、遺骨二柱を収容した。

七日、派遣団は、収容した遺骨をDNA鑑定のため未焼骨のまま送還

南方六地域で現地調査

未送還遺骨の情報収集

日本遺族会は、日本戦没者遺骨収集推進協会(推進協会)が実施している海外に未だ残されている遺骨に関する情報収集を行う現地調査に派遣協力しており、パラオ諸島、マリヤナ諸島、インドネシア、フィリピン、モンゴル、ミャンマーに二人を派遣した。

パラオ諸島現地調査第三次派遣は、ベリユー島、班とアンガウル島に分かれ九月十九日から十月



シタンでの埋骨地調査で試験を実施=ミャンマーで

三日から二十二日の期間で、ロシア連邦サハリン州、スミルヌイフ地区において現地関係団体が発掘した遺骨の受領に努めた。派遣団は、十一月十六日、成田空港で厚生労働省へ省へと引き渡した。

樺太・占守島

樺太・占守島戦没者遺骨収集派遣隊は、十月十日、ビオートル基金がスミルヌイフ地区で発掘した遺骨二柱について、遺骨鑑定人が日本戦没者の遺骨であることを確認したため、今回は受領できなかった。

時局に思う

日本遺族会会長
参議院議員
水落敏栄



過日、別冊正論の掲載(テーマ「天皇陛下の御親拝に向けて」)をお受けしました。理由は、日本遺族会会長として、天皇陛下の御親拝に反対する

陛下の御親拝に対しての考えを広くお知らせしたかったからであります。私の考えは、天皇陛下のご親拝を願う前に、私たちがまずやらなければならないのは、環境整備であるということです。それは、多くの国民が、英霊に感謝し、靖国神社に親しく参拝する環境を整えるということです。その上で、私たちができることは、二つです。

一つは、靖国神社の成り立ちや、今日の我が国の平和と繁栄は、祖国の安寧を願い、尊い生命を犠牲にされた多くの英霊

の平和の礎の上にならなければならないことを、広く国民に周知させ、参拝を促すこと。

二つは、国民の代表たる国会議員にも同様の働き掛けをし、参拝者を増やすこと。

多くの国民、国会議員が参拝するということは、靖国神社ならびに、英霊の尊厳を尊重する表れであり、ひいては、総理閣僚の靖国神社参拝につながることは明らかであります。

遺族会は、活動の根幹である英霊の尊厳を重んじて、国会議員をはじめ、

参列し、以降、靖国神社参拝に対する報道の過熱とは裏腹に、参拝者数は減少傾向を続けて参拝しました。こうした遺族の声、世論に加え、戦中戦後を体験した議員が結果として、昭和五十六年二月、一切の立場を超え、国政に携わる者が率先し、靖国神社を参拝し、英霊に敬意を表する旨を語り、「みんなう精進社に参拝する国会議員の会」が発表されました。

戦後七十三年が経過し、戦後生まれが八割を超え、国会においても戦中世代がいまや一パーセ

初受領予定であったロシア調査運動が占守島で発掘した遺骨四柱は、遺骨を輸送する船が故障したため、今回は受領できなかった。

十八日、受領した遺骨を焼骨し、追悼式を挙行した。また、樺太・占守島戦没者遺骨収集派遣隊は、十一月十四日から十八日の期間でソロモン諸島に派遣し、日本軍の捕獲収容所が在ったビエズ島及びマササ島の埋骨地で現地人の協力を得て掘削した結果、ビエズ島で三十一柱(推定)、マササ島で十二柱(推定)を収容した。また、ガタルカール島では、ラジオを通じて事業を周知し、現地住民が発見した遺骨百柱(推定)を受領した。

遺族会としても、地元選出の国会議員に要望を重ねるとともに、若い世代に世論喚起する方策を考えなければなりません。いずれも地道な取り組みとなりますが、青年部と共に活動してまいります。

開設を終え、色々な考えがあるにせよ、天皇陛下下がいかに人々の心に強く存在されているかを改めて思い知った次第です。来年は新しい御代を迎えますが、世界の恒久平和を願う歩みをしっかりと重ねていけるよう努力してまいります。



現地住民の協力でビエズ島の集団埋葬地で遺骨を収容=ソロモン諸島で

▼事務局長打合せ会
12月13日 第24回南東戦没者遺族大会の運営等について。

一般財団法人 日本遺族会への賛助金のお願い

日本遺族会では、英皇顕彰や遺族看護など様々な活動のために賛助金を募っております。本会は、これまで英皇の顕彰並びに戦没者遺族の福祉増進をはかるため、日々活動を行って来たところでございますが、東日本大震災により収益部門であった九段会館が閉館したことに伴い、現在、慰霊友好親善事業をはじめ遺骨収集帰還等各種事業の総務が大変厳しい状況にあります。本会といたしましては、各種事業を行うにあたり、今後とも努力していくことは勿論のことですが、戦没者ご遺族並びに本紙ご購読者、本会の諸事業にご賛同される皆様方より一層のご支援・ご協力を仰がなければなりません。

本会の活動の趣旨にご理解を賜り、何卒ご賛同いただきますようお願い申し上げます。大変恐縮ですが、ご賛同いただいた方の氏名を本紙に掲載し、お礼に代えさせていただきます。

※賛助金につきましては、誠に勝手ではございますが、お一人様1万円程度からお願いしております。

賛助金のお振込みは

●郵便振替 00130-2-694929
●みずほ銀行 九段支店 普通預金 0980930
口座名はいずれも「一般財団法人日本遺族会(ザイ)二ホンイソクカイ」

※ご不明な点は本会事務局(電話03-3261-5521)までお問い合わせ願います

好訪問 慰親善

亡き父たちと語り合う フィリピン及びソロモンで

日本遺族会では十一月、厚生労働省より補助を受けて実施している「戦没者遺児による慰霊友好親善事業」のフィリピン地域、ソロモン諸島地域をそれぞれ実施した。両地域で九十三人の遺児が亡き父たちの眠る地を訪れ、心ゆくまでの慰霊追悼を行うとともに、植林活動や小学校を訪問し学用品等を寄贈するなど、友好親善に努めた。

フィリピン
宇田川親雄本会副会長
(東京都葛飾区豊島区長)
を総括団長とするフィリピン

ピン慰霊友好親善訪問団
(全国の遺児代表八十五人)は十一月一日、東京靖国会館に集合し結団式を行うとともに、靖国神社

社で旅の安全を祈願した。翌朝フィリピンへ向け出発し、マニラ到着後はそれぞれ緑の地へと向かった。

A班はテレサタナイ、シニロアン、マリキナ、モンタルバン、ボンボソ、モンタルバン、ハゴノイ、ルセナ、バタンガスで、C班はクラック、タルラック、ボンドック、イリス、サンダック、マシシロックで、D班はパレテ、バンバ

中井靖教本会評議員
(奈良県遺族会会長)を
団長とするソロモン諸島
慰霊友好親善訪問団は、
十一月二十一日、全国六



サンマテオクリニックを訪問し車椅子を寄贈
=11月7日、マニラ郊外で

イロイロ方面、ナソソ方面海岸、セブ島セブ、レイト島オルモック港、埠頭、マハナラ、カナナ、ドラック、ドラック海岸、プラウエン田飛行場跡で、それぞれ慰霊祭を行い、亡き父へ積年の想いを存分に語りかけた。

また、友好親善事業では、各班、訪問先の小学校でサッカーボールや団員が持ち寄った学用品、衣類等を贈呈し、子供たちと交流し心を和ませた。

さらに、病院を訪問し車椅子を寄贈して現地の方々との友好親善を図った。八日、カリヤの「比島戦没者の碑」前において全戦没者遺骨帰還を遂行し、敬華された英霊に感謝と追悼の誠を捧げた。そして、同夜は日本国大使館代表等を招いて懇談会を開催した。

都県の遺児代表八人が東京・靖国会館に集合し結団式を行い、靖国神社で旅の安全を祈願し昇殿参拝を行った。同夜成田空港を出発し翌朝オーストラリア・ブリスベンを経由して、ソロモン諸島の首都、ガダルカナル島のホニアラに歩を印した。

二十三日にはマタニカウ川コカボナ、ママラ川で慰霊祭を行い、祭壇に故郷から持参した品々を供えて亡き父に語りかけ、午後はニュージョージア島のムンタに移動。二十四日朝、ホテル前に海を望み個人慰霊祭を執り行い、亡き父たちの冥福を祈った。小型ボートと交流を深めるとも



ホテル前で海を望んで亡き父上に語りかける団員
=11月24日、ムンタで

慰霊友好親善事業 参加者募集

募集要項は次のとおり
▼時期及び地域
▼参加費 10万円
▼参加費 10万円
※東京等に集合し、結

団式及び渡航に係る説明会を行う。なお、集合場所までの交通機関はご自身の手に配となる。また、移動に係る国内交通費及び帰国時の宿泊代、渡航手続手数料等は個人負担となる。

▼参加資格 戦没者の遺児。平成二十九年年度参加者を除き、複数回の応募が出来る。

▼申込方法 在住する各都府県遺族会事務局へ参加者の資格審査に当

たり、申込書の記入項目の全てに記入を要するの所で、事前に申込用紙を取り寄せさせていただきます。記入項目に不明な点(戦没者の部隊名等)があれば各遺族会に相談し条件を満たしたうえで提出願いたい。なお、申込多数の場合は選考となる。

また、巡拝地域や実施時期等は、相手国や交通機関等の事情で変更、延期または中止となる場合がありますので、予めご了承願いたい。

実施概要

(広域地域)	実施地域	実施時期	募集人員	申込締切	
1	フィリピン(2次)	平成31年 3月13日~3月20日	120人	1月11日	
2	中国	平成31年 3月22日~3月30日	80人	1月22日	
(特定地域)	3	ミャンマー	平成31年 2月26日~3月6日	36人	12月21日

本会事業参加者の皆様へ
本会の事業に参加するに当たり、得た個人情報(個人情報保護法)の定めに則り、厳密に扱います。日本遺族会の個人情報保護方針につきましてはホームページを参照されるか、本会にお問い合わせください。

本会への 賛助金のお礼

本紙(回)でもお願いしている本会への賛助金につきましては、ご賛同いただきました左記の方々に、お礼申し上げます。なお、大要超過はご賛助金に現金書等) 蕨田薫、森川真、山本善太郎、佐々木時治、山口俊一、志村明、仲田美千子、大山祐一、上岡芳子、岡田寛子、田中啓子、齋藤孝子、高根之雄、東義信、横山善久、常岡格男、田中頼彦、得居啓子、安田重幸、こがね、喜多村大木重美、城泰子、佐々木時治、山岸不昭、石井征樹、恩村政雄、高倉正通、中村道子、坂本亮一、山岸不昭、別府始、岡崎伊藤、中岡教子、新野田博、花田洋司、水越克博、遠藤孝子、丹原輝彦、柳ました。

美、荒田俊弘、坂中真隆、川美津江、伊藤要、遠藤澄夫、土田優子、田坂すみ、佐藤瑞美子、長江真子、奥広重行、岸光代、野津敏子、佐藤忠、中村美子、タナカマサコ、スギモトマサシ、ヤシツネコ、フジワラズビコ(以上、十一月一日から十一月末日まで) 皆様からいただきました賛助金は、本会が実施する各種慰霊事業などの活動費用に利用させていただきます。誠にありがとうございます。

巡回特別企画展を開催

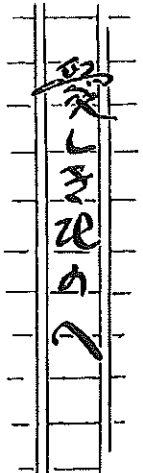
香川県で二、三八六人が来場

昭和館

昭和館が毎年実施している巡回特別企画展「戦中・戦後のくらし香川展」が、十一月十日から二十三日まで高松市の市民交流プラザIKODE五町大会議室(五町FLA G8階)で開催された。この展覧会では、開催地の香川県に関連する実物資料・写真・映像等が展示され、一万一千人を超える入場者で賑わいをみせた。

東京都の九段下にある昭和館では、平成十三年から巡回特別企画展を開催している。三十四回目の開催となった今回の企画展では、香川県に開催する資料約二〇〇点を含めて準備した千八針やはむ約三〇〇点の資料が展示された。

会期中の来場者は県内遺族を含む一万二千三百八十八人にもなり、盛況のうちに終わった。企画展には、小豆島に住む女性が夫の出征に際して準備した千八針やしがき等、当時の人々の想いを伝える貴重な資料が展示され、「坂出今昔」と題した映像では、師範学校の運動会や防空演習の様子など、当時の坂出市域における人々の暮らしの様子が紹介された。



俺は元気で征く

陸軍大尉 瀬川 正俊

昭和十九年十二月七日
フライビン、オルモック湾にて戦死
大阪府大阪市福島区大野町出身 二十一歳

兄上様、正俊は帝国軍人として、最後の名誉を与へられました。誓つてやります。母上様、二十一星霜のご逝去は無駄ではありません。正子姉さん、母上をお慕ひします。植木の兄上様上、元気で頑張れ。叔父様お世話になりました。ご慰問下さい。(中略) 馬君よ日本男児は、常に腹と腰を練れ。如何なることも厭じて買け、俺は元気で征く。

最後に一首
米英の戦は如何に終るとも
なんぞ敢なる八紘一字に

〔原文のまま〕
〔平成二十二年十一月靖国神社社頭樹木に愛しきものへ〕



昭和館所蔵のカルメン・ジョンソン撮影写真には、空襲被害を受けた高松市内の復興の様子がかかる写真が多数あり、来場者の注目を集めていた。また、県内に住む遺族の方々の遺骨収集や慰霊友好親善などの活動紹介や、県内在住の遺族の方々の戦中から戦後にかけての苦労を語る証言映像も会場で大映された。地元で多くの注目を浴び、NHKや地元新聞など様々なメディアにて紹介(二五七七)

2県で遺留品が返還

O B O N ソ サ エ テ イ

日本遺族会が平成二十二年より厚生労働省から委託を受け実施している「戦没者遺留品の返還に伴う調査」事業でO B O N ソ サ エ テ イ から本会に照会があった遺留品について、山口県と三重県の両遺族会で調査した結果、それぞれ遺族が判明した。

山口県では、昭和二十二年に徳島で戦死した周南市出身の角戸行夫氏(戦没者遺留品は健康状態や性格などが記された看護表や図面の教科書、小説など七点で、市会長は日章旗ではなく書類が戻ってくるのは珍しい。看護表を読むと国のために尽くしたことが推し量られる)と話した。



遺著者 安元 百子

特攻に果てし若さの遺書読めば涙あふれて夏にならず
富士吉田市 菅沼 勝田
静かなる海の音波の音聞こえくる紺碧の表紙の父の慰霊誌
青森県 田中 恭子
武蔵沈み残る島海軍陸上兵移乗させ一人ぼり焼りし
佐世保市 田中 暁
フライビンの山麓に眠る父を呼ぶ声木霊する慰霊誌
富山市 酒井 咲子
時季はすれ島に咲く花南洋の桜見せくれじ父のやき
安原 恭子
アンガルの鳥影を拝見すこへリユエのオムル
石岡市 小山 清江
亡き父の戦地に立ちて無念の想い小石拾いしルソンの
山女み 村松 洋一

十二月二十三日は平成最後の天皇誕生日です。宮中の祝賀の行事や一般参賀も行われます。昭和二十三年に「国民の祝日に関する法律」が制定される以前は天皇節と称し、学校では式があり次の祝歌を歌い奏されました。
「今日の吉日日は、大君のうまれたまひし 吉日日なり 今日の日吉日日は、みひかりのさし出たまひし 吉日日なり ひかり通し君が代を 祝へ諸人ももとも に恵み通し君が代を 祝へ諸人もももとも」
平成の御代を顧みて謹んでお祝い申し上げます。(遺著者)

購読者の皆様へ
日本遺族通信第817号(1月号)は、行事の都合により発行日から若干遅れて発送させていただきます。ご迷惑をおかけいたしますが何卒、ご了承くださいますようお願いいたします。
日本遺族通信編集係



旅が、
未来の
わたしを
つくる。

www.tobutop-tours.com

スリリングだったり、とてつもなくダイナミックだったり、思いもよらぬ出逢いがあったり、かけがえない何にも勝る感動と道遇したり、そんな旅のひとつひとつが、あなたの心を育て、あなたの未来を素敵に変えるきっかけになりますように... 新し

東武トップツアーズ
TOBU TOP TOURS

東京法人東事業部 第4営業部 担当: 櫻井・高橋
〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町 2-10-5
住友生命茅場町ビル2階
TEL.03-6667-0534 FAX.03-6667-0564